

2023年2月24日

日本共産党県議団
尾村利成

一問一答質問項目表

1. 福島原発事故の現状認識について

- ① 福島原発事故から間もなく丸12年を迎える。事故は未だ収束していない。原発事故は、人々の幸せを奪い去った。しかし、岸田政権は2月10日、原発の「最大限活用」を明記した「GX(グリーントランスフォーメーション)実現に向けた基本方針」を閣議決定した。この方針は、福島第一原発事故を踏まえてつくられた現行の「原則40年・最長60年」としている運転期間の上限ルールを撤廃し、60年を超えた運転を可能にするものである。福島原発事故の教訓は何であったと認識しているのか伺う。また、福島の実状についての認識を伺う。(知事)

2. 島根原発2号機再稼働同意の県民合意について

- ① 知事は昨年6月2日、原子力規制委員会のすべての審査(「工事計画」「保安規定」)が終わっていないのに、多くの県民の反対を押し切って島根原発2号機の再稼働同意を表明した。昨年6月の再稼働同意表明以降、2号機の再稼働について県民の理解と納得が得られたと考えているのか伺う。(知事)
- ② わが会派が実施した市民アンケート(1000人超からの回答)では、6割を超える方から「2号機の再稼働には反対」との回答があった。県として県民ニーズを正確につかむべきである。県として如何なる方法で民意を計るのか伺う。(知事)
- ③ 「子ども子育て支援パッケージ」の名で、少人数学級縮小を強行した教訓を忘れてはならない。子ども医療費助成と放課後児童クラブへの支援を拡充するために、少人数学級編制基準を後退させた手法は、県民の中に対立と分断を招き、教育関係者や保護者から県政への不信が広がった。多くの県民が2号機再稼働に不安を持ち、反対しているのに、2号機再稼働を容認し、推進することは、またもや県政への信頼を失墜させることになり、笑顔で暮らせる島根をつくる「島根創生」とは相容れないと考えるが、如何か。(知事)

3. 避難計画の実効性の有無について

- ① 知事は、昨年9月議会で、避難計画について「感染症への対応をはじめ、複合災害対応など、必要とされる事項について実行できる内容を盛り込んでおり、実効性はある」と強弁した。この間の新型コロナの医療ひっ迫、1月下旬の大雪による大渋滞を経験した上でも、現行の避難計画に実効性があると認識しているのか伺う。(知事)
- ② 1月下旬の大雪では、走行不能となったスタック車両が発生し、大規模渋滞となった。除雪がままならず、歩道や生活道路は手つかずで、多くの市民が身動きできない事態となった。市民からは「原発の事故時、避難などとてもできない。大雪の時は中国山地を越えられない」「長時間の避難で高齢者や患者が耐えられるのか」などの心配の声を多数お聞きした。これらの不安にどう応えるのか伺う。(知事)

- ③ 1月の寒波を踏まえ、国、県、市町村で大雪時の除雪対策、渋滞解消対策などの対応策を協議し、抜本的な対策を講じるべきと考えるが、如何か。(知事)
- ④ 現行の避難計画は、入院患者は山陽3県、四国、関西までの転院を想定している。入院患者や医療関係者からは、患者の命と健康を顧みない冷酷な計画であるとの声が上がっている。この声をどう受け止めているのか伺う。(知事)
- ⑤ 原発事故時には、病院や福祉施設で大混乱が発生する。入院患者、入所者、要支援者に対応するマンパワーが確保できていると認識しているのか伺う。各施設での詳細なる調査、ヒアリングが不可欠と考えるが、如何か。(知事)
- ⑥ 避難計画の実効性の有無を判断するのは、避難をする当事者であると考え、如何か。さらに、避難に携わる医療、福祉、学校、保育関係者と考えるが、如何か。(知事)
- ⑦ 受け入れ自治体の一つである広島県庄原市議会は昨年3月23日、「避難計画は、自力での避難が難しい人への支援や、自然災害で避難経路が使用できない際の対応、避難所での新型コロナウイルス感染症対策など、実効性に関する課題が山積している」として、住民の命と安全が守れる保証がないままに、2号機の再稼働に反対するとの決議を採択した。この決議こそ避難計画の実効性を否定するものと考え、如何か。この決議を受けて、県としてどう対応するのか伺う。(知事)
- ⑧ 実効ある避難計画とは、「住民の命と安全を守ることができる」計画と考えるが、如何か。(知事)
- ⑨ 避難計画に実効性があるとの認識は、県が原発の安全神話を振りまくことになるのではないか。所見を伺う。(知事)
- ⑩ 危機管理の基本は、最悪の事態を想定すべきと考えるが、如何か。(知事)

4. 原発事故に伴う子どもの学びと成長への影響について

- ① 福島原発事故は、子どもの学びと成長に如何なる影響を及ぼしたと考えているのか伺う。(教育長)
- ② 子どもたちは、原発事故や事故に伴う避難生活によって、友達や家族と離れ離れになってしまう。このことは、子どもの心に深い傷を負わせ、学びと成長に悪影響をもたらすこととなると考える。所見を伺う。(教育長)